

介護手すりの高精度・高機能化と生産性向上による 低コスト化を実現する生産プロセスの革新

オーエム機器は研究開発型の製造業で、フロア関連商品や住宅関連商品、福祉関連商品を生産する。国内の高齢化進展により、手すりなどの福祉関連商品のニーズが高まっている。生産性を高めるために金属の板とパイプの双方を切断できる複合レーザー加工機を2016年に導入。不良率の発生抑制などで成果を上げた。

会社概況

開発から量産まで一貫対応

1973年、自動車部品などを生産していたオーエム工業（現アステア）から住宅関連製品を分離、独立する形でオーエム機器を設立した。大型建築物のフロア関連商品が主力事業で、二重床用パネルや高さ調整用支持脚といった製品を生産する。パネルは金属と木材を使用した高品質な製品や石貼を施した高付加価値な製品を主力としている。

また断熱物置用パネルなどの住宅関連商品、介護用の手すりや水回り車いすなどの福祉関連商品も手がける。岡山県総社市の本社工場と同美作市の英田工場、茨城県東茨城郡城里町の茨城工場と3カ所に生産拠点を構え、開発から設計、試作、量産まで一貫して対応できる技術力を強みに成長してきた。



福祉関連商品を生産する本社工場

事業内容

福祉関連商品の生産増加

近年、生産量が増えているのが福祉関連商品だ。自社で製品を開発、試作し、生産した製品はOEM（相手先ブランド生産）の形で供給する。福祉関連の主力商品である介護用の手すりは床置き型で、床と接するベースフレームと手すり部分で構成。工事が不要で移動も簡単にできるため「ニーズが高まっている」（生産部の藤原正範副部長）という。

生産量の拡大は効率的な生産体制の構築という課題を浮き彫りにした。ネックとなっていたのが手すり部分となる金属製のパイプを切断する工程だった。バンドソーと呼ぶのこぎりの刃が回転する装置を使い、作業者が切断していた。切断後にバリが生じる点も生産性を低くする要因だった。



床置き型の手すりなどを生産

事業成果

生産性3割向上

ものづくり補助金を活用し、金属の板とパイプを1台で切断できる複合レーザー加工機を2016年に導入した。レーザーでパイプを切断するためバリの発生を抑制でき、不良率の発生を約6割削減。さらに、導入前に2台の装置で合計五つあった工程を複合レーザー加工機に集約でき、生産性は約3割向上したという。

福祉機器商品の売上高は2020年8月期に8億円まで拡大した。金属の板を曲げるプレスブレーキやパイプを曲げるパイプベンダー、溶接工程に産業用ロボットを追加導入。さらに昨年からはパレタイズや協働型など複数のロボットも採用した。藤原副部長は「若い社員も増え、加工技術知識の平準化が目的」と説明する。



プレスブレーキなどの加工機械を導入

会社概要

設立 1973年
資本金 6480万円
従業員数 143人
売上高 44億円（2020年8月期）

所在地 岡山県総社市赤浜500
TEL 0866-94-1100
FAX 0866-94-1110
URL <https://www.omrex.co.jp>



ワンポイント

岡山県では少ない全国展開の企業

岡山県内でオーエム機器のように製品の開発から設計、試作、部品加工、量産まで一貫して手がけ、全国に事業展開する地場の中小製造業は少ない。特に開発から設計、試作の工程で負担となるのが金型の製作だ。同社は2021年に最大30センチメートル角を成形できる金属3Dプリンターを導入。金型をつくらずに試作品を製作できるようになった。今後は外部から金属造形を請け負い、新事業として育成していく計画という。

代表取締役社長

なんば けいたろう
難波 圭太郎さん

